

限の注意を払いながら役員会議を行ってきました。一部だけですが、ご紹介いたします。

4月の総会資料に間に合わせるべく町内会則の見直し作業を暮れから行っています。一般的な自治会会則のひな型を参考に条文の整理が主です。

次に現時点での最重要課題は次期執行部役員選出です。目星をつけていた方たちを12月から休日の朝に戸別訪問し、就任を依頼してまわりました。町内行ったり来たりで9千歩を超えることもありました。おかげで女性1名、現役の男性複数名から内諾を得ました。これで発足当初の執行部役員は「ジジイ達だけの集まりか？」を改善できることになりそうです。

昨年、町内会行事を棚卸ししました。体育会行事への参加にしても選手の皆さんが高齢化しているのにもかわからず何とかチームを作っている状況でした。これからは少人数でも、できる人たちが集まって



密を避けての会議

ームを作り、町内会に申請をして経費予算をもらうというスタイルが良いと思います。

現在、当地区は600世帯を超えています。旧浅沢地区が人口減少傾向、本館(特に花巻北高周辺)地区が増加しています。1班で30戸を超えるようになると、集金、回覧板返しにも支障をきたすため、班の分割を行っています。行政区長、班の代表の方たちと話し合いながら、3つの班を分けました。

(うち2班は新年度から実施予定)まだ田圃も含む空地が多いことから、この傾向は続くと考えています。以上、このコロナ禍の早い鎮静化を祈りつつ。

### ▼コロナ禍での町内活動

浅沢町内会 金子一美

新年を迎え清々しい気持ちになるものだが今年はずいぶん違う。昨年のコロナ発生から1年が経ったが未だ終息のきざしが見られない。浅沢町内会は4月開催の、定期総会を中止し書面議決とした。又、今後の役員会については、三密等感染予防のため各班の幹事は入れず、執行部、各部長のみにして、2ヶ月に1回の開催にした。必要に応じて臨時役員会を実施し町内活動を進めてきた。花巻祭り、敬老会、

芋煮会等事業計画は中止や縮小となり、例年当たり前のように協議し実行していたことが出来なくなった。その中で、3月の緊急事態宣言から自宅にいる時間が多くなっていたが、6月末の市民一斉清掃では久しぶりに近所の方々と顔を合わせる事ができた。ゴミ問題にも取り組んできた。世帯数も多くなり、ゴミの出し方がよく分かっていないため苦情があり、ゴミ置き場の施設や立ち合いを試験的に取り入れ、かなりの改善が見られた。これは、次年度も継続課題としたい。浅沢自主防災会では、5月予定の出前講座を10月に延期し、市防災危機管理課の協力で災害時の避難所運営について指導を受けた。段ボール製の簡易ベッドの組み立てやテントの組み立てを体験した。ベッドは思いのほか強度もあり、テントはパイプを通すだけでシンプルにできていて女性でも組み立てられるものだった。防災知識は住民が共有し、いざとなったらすぐ動けるようにしていきたいものだ。一人暮らし、高齢者、介護している世帯など様々である。町内会運営では、それぞれの希望に沿った話し合いが必要である。コロナ禍で住民同士の繋がりも薄れていく危機感がある中で出来ることを地道にやるしか道はないと感じている。

### ▼コロナ禍に想う

桜台自治会 北山六郎

今、地球はパンデミック(世界的大流行)の真っ只中にある。古くは2400年前のアテネから発生した(天然痘?)記録があると云い、その後約100年毎にペストやコレラなどでパンデミックが発生してきた。今から100年前にはスペイン風邪が流行し世界人口の3分の1が感染、数千万人が死亡している。

時々、地球は計り知れない大きな者の手のひらの上で生かされているのではと思う事がある。その大きな者が「おい人間ども、いつまでもいい気になりやがって」とか言って人間を時々間引いているに違いない。

産業革命以降は大量生産、大量消費が裕福の証としてきた。そのため石油、石炭の地下資源を掘り起し、CO2を垂れ流してきた。それらが今、地球温暖化による異常気象や超大型台風、大規模森林火災を発生させているという。

また、近年は密林の大規模伐採やプラスチックごみ問題など地球環境の悪化で生態系の乱れも懸念されている。飢餓人口も6億人超とか、今後食糧不足や海面上昇による地上の水没等も危惧されている。これからの200年、300年